



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年2月発行（第82号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

〔目次〕

- ◎巻頭メッセージ：「地上の商人」 エレミヤ
- ◎時代を悟る：「心理学と聖書の価値観」
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「地上の商人」 by エレミヤ

本日は、「地上の商人」という題でメッセージしたいと思います。

黙示録の中には「地上の商人」ということばが使われています。以下の箇所です。

黙示録18:3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、**地上の商人**たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」

ここでは、淫婦バビロンとともに「地上の商人」に関して描かれています。このことばの意味を考えてみたいと思うのです。

<黙示録は「地上の」人々について語る>

黙示録には独特の用語やキーワードが使われています。その中で、今回は地ということばを見たいのです。この書には頻繁に「地」

に関することばが多く使われています。

たとえば、以下のことばです。

地に住む人々：黙示録6：10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、**地に住む者**に私たちの血の復讐をなさないのですか。」

地の王：黙示録17：2 地の王たちは、この女と不品行を行ない、**地に住む人々**も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」

この様に黙示録には地上の商人、地に住む人々、地の王というように、地に関することばが何度も語られています。このことの意味合いを考えてみたいと思うのです。

<主はたとえの理解を語る>

この地上の商人ということばを理解する前に私たちがまず知らなければならないことは、黙示録はたとえや謎が多用された書であるということです。聖書は主が語られたことばはみな、たとえであることを述べます。以下の通りです。

「地上の商人」 エレミヤ

マルコ 4:33 イエスは、このように多くのたとえで、彼らの聞く力に応じて、みことばを話された。

4:34 **たとえ**によらないで話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちにだけは、すべてのことを解き明かされた。

聖書はこのように主が「たとえによらないで話されることはなかった」ことを述べます。ですので、主のことば、そしてキリストを証しする書である聖書は、たとえに満ちているのです。それで、私たちはたとえを理解することに心を注ぎ、主のことばを理解していきたいと願うのです。

<地上の商人のたとえの意味合い>

地上の商人ということばのたとえの意味合いを考えてみましょう。この地上ということばを理解するには以下のことばを考えることが効果的だと思います。

ヘブル 11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、**地上**では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

ここでは、旧約の神の民の信仰の先祖であるアブラハム、イサク、ヤコブに関して地上では旅人、寄留者であることを告白していたことを語ります。

アブラハムは旧約のイスラエルの先祖であり、信仰の模範です。そして聖書によれば、私たち新約のクリスチャンも新約のイスラエルなのですから、私たちクリスチャンもアブラハムの信仰にならう必要があるのです。すなわち、私たちも地上では旅人であり、寄留者の歩みをするべきなのです。

地上において旅人であり、寄留者である、と

いうことの意味合いはどのようなものなのでしょう？それは、私の理解では私たちのこの地への態度を示すものと思えます。態度？すなわち、こういうことです。

私たちクリスチャンは誰も彼も好むと好まざるとこの地に生きるものであり、この世の中で生活し、世の学校へ通い、世の会社に通って生活をなりたいたせるものなのです。生きていく上でこの地と接触しないわけにはいかず、この世と無関係では生活できないものなのです。しかし、そうではあっても、この地に対して、私たちクリスチャンがどのような態度で接するか、この世とどのような態度で接するか、それは大事なのです。

地に暮らすにあたってあるべき姿、模範的な歩みは、以下の様なアブラハムの歩みなのです。

ヘブル11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

アブラハム、そしてイサクもヤコブもこの地において、天幕生活をしていました。すなわち彼等はこの地に住んではいても、ここには彼らの定住の宿や住まいはないことを告白し、また、天幕にすむことにより、自分たちはこの地の永住者ではない、ただ仮に住んでいる者に過ぎないことを告白していたのです。これが、旅人、寄留者であることの意味合いなのです。

さて、このように歩むこと、地上の旅人、寄留者として歩むことに何か大事な意味があるのでしょうか？何かどころではありません。その歩みは実は、私たちの永遠の行き先に大いに関係するのです。地上で旅人、寄留者の歩みをするところこそ、天の都に入る条件なのです。以下の様に書かれています。

「地上の商人」 エレミヤ

ヘブル11:15 もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。

11:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち**天の故郷**にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

地上で旅人、寄留者の歩みをしたアブラハム、イサク、ヤコブたちに対して神は天の都を用意しておられたことがここで語られています。

しかし、それでは逆の歩みをする人々に対してはどうなのでしょう？地上で旅人、寄留者の歩みなどせず、この世にどっぷりとつかった歩みをするクリスチャンに対してはどうなのでしょう？どうも天の都が危なそうな予感がします。いやそうなるように読めます。

そして、黙示録のいう地上の商人、地に住む人々、地の王などは、このアブラハムとは対照的な人々をさすことばなのです。すなわち、彼らはこの地、この世の定住者であり、この地、この世にどっぷりとつかり、この世の価値観、思想で歩む人々なのです。

そして黙示録を読むならこの地につく人々に対して、よいことばは書かれていません。逆に彼らの裁きや滅びを暗示するような記述が多く書かれています。以下の通りです。

黙示録 6 : 10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、**地に住む者**に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

<彼らの思いは地上のことだけ>

ピリピ書はこのような地に住む人々に関して

彼らの思いは地上のことだけであることを述べます。以下の通りです。

ピリピ3:19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。

この箇所を見てみましょう。ピリピ 3 : 18 ~ 20 の箇所を読みます。

ピリピ 3:18 というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

ここでパウロは、多くの人が「キリストの十字架の敵として歩」んでいることを語ります。キリストの十字架の敵として歩むとはどういうことなのでしょう？こういう意味だと理解できます。主が十字架にかかれたその理由は、私たちの罪ある肉が滅んで、私たちが肉や罪から解放されるためなのです。

そして十字架の敵として歩んでいる人々とは、その滅ぼされるべき自分の罪深い肉を大事にし、それを十字架につけることを望まない、そのような人々です。

ピリピ3:19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。



同性婚を祝福する地につく牧師

「地上の商人」 エレミヤ

ここで、「彼らの最後は滅びです。」と書かれています。ですから、自分の肉を十字架につけることをせず、キリストの十字架の敵として歩む地的なクリスチャンの行き着く先は天の御国でも、永遠の命でもなく、逆に滅びであり、地獄であることをパウロは語るのです。恐ろしいことです。「クリスチャンは決して地獄へ行かない」などとの愚かな曲がった教理にしがみつかず、このパウロの警告の声に耳を傾けるべきです。

「彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。」

このような自分の肉を大事にする人々にとり大事なこと、また彼らの神は、自分の欲望なのです。これらの人々は、神ではなく、自分の肉的な欲望を満たすことや、名声、栄華を得ることに仕えているのです。

「彼らの思いは地上のことだけです。」

そしてこのような肉的な人々の思いは地上のことだけであることがここで書かれています。彼らが気にしていることはこの世での評判、地位、経済であり、心の中はそんなことばかりでいっぱいなのです。そして、このような人々、思いが地上のことだけである人々こそ、聖書がいう「地に住む人々」なのです。

3:20 けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。

ここでは、しかし、私たちの国籍は天にあることが述べられています。すなわち、ここでも地に住む人々と対照的に天の国籍が語られているのです。言い換えると、私たちが、地に住む人々として歩むなら、天の国籍を得ることが難しいことがここで暗示されているのです。

＜地とは水のないところ＞

もう少し、「地」について聖書が語っていることを見て行きましょう。創世記は、地について以下の様に語ります。

創世記 1:10 神は、かわいた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。神は見て、それをよしとされた。

この箇所に書かれているように、聖書的にはかわいたところ、すなわち水のないところをさして「地」と呼ばれているのです。そして、水は聖書のたとえとして聖霊のたとえです。以下の様に書かれているからです。

ヨハネ7：38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

です。地とはすなわち、聖霊のない場所をさすたとえなのです。また、黙示録の言う地に住む人々、地の王、地上の商人などはみな、聖霊を持たないクリスチャンをさすたとえなのです。

＜バビロンと地上の商人＞

冒頭のテキストに戻りますが、黙示録は地上の商人がバビロンと関係があることを語ります。

黙示録18:3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」

このことを考えて見ましょう。バビロンは以前見たようにアメリカのキリスト教会をさすたとえであると理解できます。そして、地上の商人のたとえの意味合いはそれはこの世についての牧師、教師をさすたとえです。

「地上の商人」 エレミヤ

彼らは御霊を持っていません。商人は売り買いを行うものですが、それは買い取ること、すなわちあがないと関係することばです。ですから、商人とは、あがないと関係する牧師、神父、教師などをさすたとえなのです。そしてこのような地的、この世的、御霊を持たない牧師たちが大いにバビロン、アメリカキリスト教会の繁栄や発展に力を入れる、惹かれていく、そのことを上記みことばは語っているのです。

ですから、上記節を通して聖書が語ること、それはバビロンすなわち、アメリカのキリスト教会は地上の商人すなわち、この世についてた牧師や教師には大いに受けられる、大歓迎されるということがらなのです。

逆な言い方をいうなら、アメリカキリスト教会のおかしなこの世的な教理に問題を感じず、聖霊とは思えないおかしなリバイバルの霊に疑問をいだかない牧師や教師はすなわち、そのまま神の前に人の前に地上の商人なのです。彼らがアメリカ、バビロンを見抜けないその理由は彼ら自身が地上の商人であり、この世についてた人々だからなのです。そのようなわけで私たちはバビロン、アメリカのキリスト教会に関して、人間的な視点ではなく、神の視点、聖書の視点で見るべきなのです。

アメリカのキリスト教会は人の目には理想的な教会、指導的な教会に見えるかもしれませんが。しかし、神の目の前には、この教会は地的な教会であり、裁きや罰の対象なのです。そしてこの教会の教理を受入れ、その霊を受入れる牧師、教師は人間的にどう評価されようと神の目の前には、憎むべき地上の商人、すなわち、この世についてた牧師、教師であるに過ぎないのです。

バビロン、アメリカのキリスト教会が地のものであり、この世的なものであること：このことは誇張でなく、事実です。アメリカのキリスト教会のその特徴、トレンドは明らかにこの世についてたトレンドなのです。たとえば、アメリカでもてはやされているレフトビ

ハインドや、艱難前携挙説はすなわち、神のことばの真理より、自分たちが艱難に会いたくない、というこの世的なクリスチャンに迎合するこの世的な、自分勝手な教えです。

さらにアメリカのキリスト教ミュージックはこの世の歌をカバーしたり、刺青を入れた世的な歌手が歌っています。さらにアメリカのキリスト教会では離婚も同性愛も刺青もどんどん受入れられています。まさにどんどん地的なものが取り入れられ、この世的なものが教会に入ってきているのです。このことは、神の目の前にもまた聖書的な視点でも大きな問題であり、大問題なのですが、しかし、地上の商人、すなわち、この世についてた牧師や神父、教師は問題を見ません。彼らの目は曇らされ、一体何が問題なのか理解できず、むしろこれらの冒流を自ら推進していきます。彼らは盲人です。

このように、確かにバビロン、アメリカのキリスト教会が地に住む人々のトレンドや、考えにマッチしたものとなっていることがわかるのです。しかし、それらのこの世的な歩みを進めるバビロン、アメリカキリスト教会はいずれ、一日で滅んでしまうことをも知りましょう。以下の様に書かれています。

黙示録18:8 それゆえ一日のうちに、さまざまの災害、すなわち死病、悲しみ、飢えが彼女を襲い、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は力の強い方だからです。

主を恐れるべきです。以上



聖書で禁じられている刺青を行うアメリカのクリスチャンミュージシャン

いまの時代において心理学、臨床心理学は人々に大きな影響を与えています。多くの人は人生の悩み問題や心の問題に対して心理学に解決策があると考えます。そして、心理学の専門家に助けを求めていくのです。

では、心理学とはどのようなものなのでしょう。

今や心理学は大変人気のある学問となっています。書籍でも心理学関連の本が多く見受けられ、学問としても、大学の心理学科は人気があり、また心理学の講座やカウンセラー講座も人気があります。心理テストも多くの人々が一度は試されたことがあるのではないのでしょうか。

人々は自分のことや人の心を知りたいと願い、心の悩み、日常の悩みなども心理学によって解決しようと考えています。多くの老若男女が心理カウンセラーの元をおとずれ、心理カウンセラーが、彼らにアドバイスをしています。

教会でも、心理学にもとづくカウンセリングを行うところがあります。また、アメリカの多くの教会が心理学に基づいたカウンセリングを用い、また、教会とは関係のない臨床心理のカウンセラーを、悩みのある人々に紹介しています。

人の心について昔から多くの人々が考えてきました。それは哲学という形でギリシャ時代から始められ、心理学は19世紀以降学問として成立しました。その中で多大な影響を与えたのが精神科医でもあるフロイト、ユング、アドラーの3人です。ユングも、アドラーも、フロイトから影響を多く受けています。フロイトは人の行動には心理的な裏付けがあり、それが「無意識」であるという無意識の学説を唱え、夢を分析し人の心を探ろうとしました。

フロイトは、無神論者で、神の存在を認めていませんでした。彼は、宗教を幻想とみなしキリスト教に敵対しています。また、ユングも牧師の息子でしたがオカルトを好み、キリストを信じていませんでした。ユングはオカルトの影響を受けています。心理学に多大な影響を与えている彼らはイエスを信じていないのです。はたして、反聖書的な考えを土台に持つ心理学に問題の解決法を求めていくことは賢明なことなのでしょうか。

マルコ7：20～23

人から出るもの、これが、人を汚すのです。内側から、すなわち、人の心から出てくるものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。

このように、聖書では、人間は、自分自身では変えることのできない罪深い性質を持っていると言います。そして自分では解決できない罪の問題を、神に立ち返り悔い改めてイエスによる罪の赦し、罪からの解放をいただくのです。

しかし心理学では、問題の原因は養育環境や両親や友人関係などという外的な要因に由来していると考えます。そして自分の力で、イエス抜きで、自己愛、自尊心、自分の価値、自己イメージ、自己実現など自己を改善していくことで問題の解決を図ろうとします。そこには罪の自覚はなく、神に立ち返り悔い改めることも、罪からの真の解放もありません。心理学は、神に立ちかえる「悔い改め」から人を遠ざけるのです。

時代を悟る「心理学と聖書の価値観」 H.F

心理学の人間的知恵で自分の過去から内面的な治癒を進めていくことは、環境や周囲の人に責任転嫁させ自分の中にある罪について気づかせないようにさせます。

そして、神様抜きに、自分は価値があるという自己肯定「自尊心」で、自分を救おうとします。キリスト教とこの世の知恵が土台となった心理学の価値観はぶつかり合うのです。そしてこの世のものを決して混ぜ合わせてはならないのです。

ロマ 12 : 2 「この世と調子を合わせてはいけません。」とあります。

この世の知恵である心理学や心理療法と聖書の教えは互いに正反対のものなのですが、現在、教会において心理学を土台にカウンセリングをすることが多く、すっかり定着しています。

アメリカにはキリスト教カウンセリング協会があります。キリスト教のカウンセリングは心理学と聖書の言葉を混ぜあわせているのです。

心理学は誤って聖書を解釈するために用いられ、聖書は心理学の考えや概念を正当化するために誤用されています。真理から離れた惑わしが起こります。それは、主の前に罪を悔い改めること無しで、自己肯定する「自尊心」という偽りの福音です。

信徒は、聖書と複雑に混ぜ合わされた心理学的な考え、心理学の背景にあるオカルトの惑わしに警戒しなければなりません。知恵を持ってこの複雑な惑わしを見極め、何が真理かを見分けなければなりません。

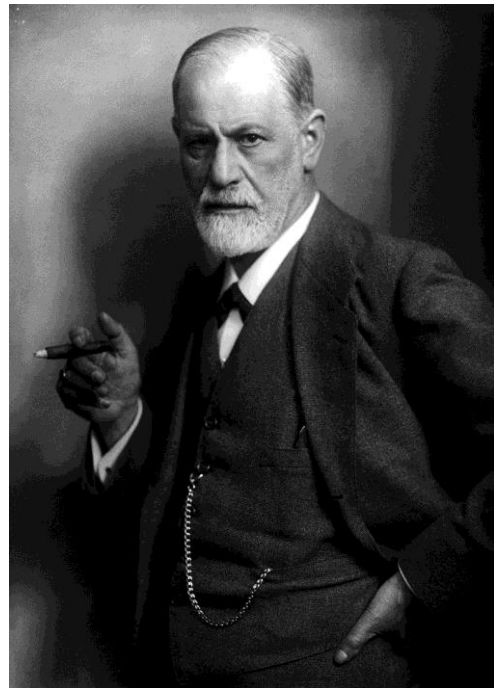
すべての人が罪を犯し正しい人はいません。聖書は罪から救われる唯一の方法は、イエスキリストを通じて神と和解することだと教えています。

ヨハネ 14 : 26

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしがあなたがたに話したすべての事を思い起こさせてくださいます。

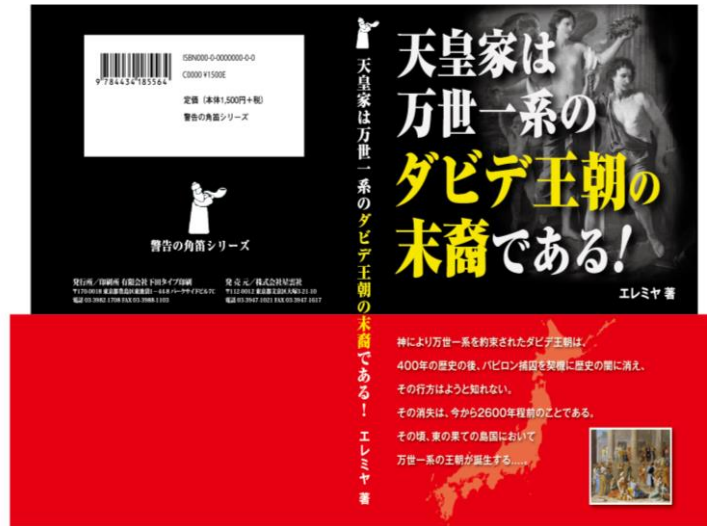
とありますように私達には、真のカウンセラーが存在しています。それは聖霊です。

心理学という世の知恵を混ぜ合わせることなく、御霊により神ご自身から知恵をいただくならば、キリスト者は悩む人々に真のカウンセリングができるのではないのでしょうか。—以上—



フロイト

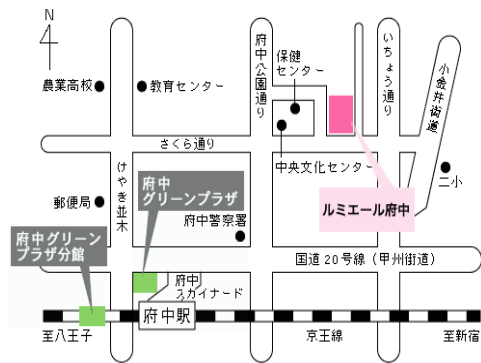
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>